

平成 30 年第 12 回 浅口市教育委員会 議事録

1. 招集日時 平成 30 年 11 月 20 日 (火)

2. 場 所 浅口市中央公民第一会議室

3. 開 会 午後 3 時 00 分

4. 閉 会 午後 4 時 00 分

5. 出席者 中野留美 中務美保子 藤澤弘幸 佐藤賢次 高戸崇

6. 説明のために出席した者の氏名

教 育 次 長	小山朋子	教育総務課長	難波勝敏
学校教育課長	村下徹	こども未来課長	笠原清美
生涯学習課長	清水真	金光分室長	中嶋利恵
寄島分室長	田中太志	学校給食センター所長	山本峯廣
教育総務課	垣内巧子 (事務局)		

7. 傍聴人 なし

8. 議 事

日程 1 議事録署名委員について

浅口市教育委員会議規則第 29 条により藤澤委員を指名。

(了承)

日程 2 会期について

本日 11 月 20 日の 1 日会期

(承認)

日程 3 議案第 44 号 準要保護の認定について

(学校教育課長)

資料により説明。

(承認)

日程 4 議案第 45 号 浅口市子ども・子育て支援法施行細則の一部を

改正する規則について

(こども未来課長)

資料により説明。

(承認)

日程 5 議案第 46 号 浅口市立図書館雑誌スポンサー制度実施要綱の
制定について

(生涯学習課課長)

資料により説明。

(承認)

日程 6 議案題 47 号 浅口市子ども・子育て会議委員の委嘱について
(こども未来課長)

資料により説明。

(承認)

日程 7 諸般の報告について

(教育次長)

教育を語る会での意見を報告。

(教育委員)

家庭でのプログラミングの学習というのは、どんなことなのか。

(学校教育課長)

プログラミング教育については、市販のソフトがいろいろあるので、それを利用しているのだと思う。家庭で、ロボホンを利用しているということではない。

(学校教育課長)

第 4 回学校訪問を平成 31 年 1 月 15 日 (火) に実施することの確認。

教育ジャンプアッププランについて説明。

(教育委員)

目標と評価がはっきりわかって、共有しやすい。いくらでも、含有できるものになっておりよいと思う。

(教育委員)

目標達成に向けた、指導をしてもらいたい。

(教育委員)

学校ごとに特色ある特色ある取組を充実させてほしい。

(教育委員)

何に対してのNo.1なのかと、よく聞かれるが、具体的に
なってわかりやすいと思う。

(こども未来課長)

平成30年度子ども・子育て会議を11月26日(月)13時30
分から開催され、委員を委嘱することを報告。

来年度の募集締切による幼児教育、保育利用状況の報告。

保育士の就職説明会を12月15日(土)13時～16時に中央
公民館の大講義室で開催することの報告

(文化振興課)

金光教教学研究所国登録有形文化財登録について報告。

寄島町青佐山台場跡の土塁修理に伴うトラブルについての
現状報告。

(金光分室長)

第17回金光キッズフェスティバルを平成30年12月16日
(日)10時開催報告と来場依頼。

(寄島分室長)

浅口市マラソン大会を平成30年12月9日(日)開催案内。

日程9 その他について

(教育委員)

府中市のコミュニティ・スクールの視察について報告する。
地区別に、コミュニティ・スクールを数年前から行っている
地区や、取り組みかけたばかりの地区もあった。学校の教師
が、中心となることが多いのに対して、府中市では、プレゼ
ンテーションから質疑応答まで、全てにおいて地域の方が、
お話しくださった。立ち上げ当初からの苦労話も聞くことが
できた。お話を聞く中で、取り入れる価値があるように思え
た。来年の8月2日に開催される全国大会でも発表する予定

とのことだ。小中一貫教育が、より系統だったものになっている。

(教育委員)

府南学園として、府中市立第一中学校と中学校区内4小学校で、構成されたコミュニティ・スクールの発表の中で、共通していたのは、①中学校区内4小学校で、育てたい子ども像をはっきり示し、学校・家庭・地域で、共有している。②特徴ある部会を設置しており、地域の行事も必要な部会を実行部隊として活動している。運営協議会設置とともに、このような部会を作ることもいると思う。③運営協議会委員は、学校と地域を結ぶコーディネーターとしての役割を担っており、役割を担える委員を選ぶ必要があると思った。発表の中で、「子どもは、行事に参加するのではなく、参画する。」と言われていた。子どもにも地域の一員としての役割があり、担い手とされている。コミュニティ・スクールの視点で、諸行事の見直しをし、行事の幅を広げたり、新たな活動を作り出したりしている。コミュニティ・スクール推進員が、学校・家庭・地域で、授業づくりをして、カリキュラムに取り入れ、社会に開かれた教育課程を目指していると聞いた。小中一貫教育についての指導講和もあった。小中一貫教育の6つのステージを段階的に進めていき確認しあう中での視点は、これから施行研究していくコミュニティ・スクールの展開に生かせる。

(教育委員)

コミュニティ・スクールの活用として、人口減少や少子高齢化が進む中で地域を活性化する目的があると思うが、府中市はどのような状況なのか。

(学校教育課長)

人口規模は浅口市とほぼ同じぐらいだが、中山間部で府中市は家具のイメージが強いが、機械部品等の製造企業も多く、企業からの後押しも充実しており、キャリア教育的な柱を小中一貫教育に取り入れている。

(教育委員)

育てたい子ども像を出口(中学校卒業)とし、出口を見据えると、小学校はその過程と位置付けている。コミュニティ・スクールを取り入れると、教職員の働き方改革に逆行するの

ではと思われるが、混乱することもあるのは最初の段階であり、地域全体で、子ども達を育てあげるといふ共通の目的意識で、ボランティア活動への参加や、行事への参画と、互いに活気あるものになってきているように感じた。地域にある力を利用する手法としては、有効だと思う。

(教育長)

地域に合った手法を取り入れていきたい。他にあるか。

(教育委員)

学習発表会のシーズンだが、各学校の特色を生かした発表ができていたと思った。

次回教育員会議

平成30年12月14日(金)15時30分～ 中央公民館大講義室

平成30年12月14日

浅口市教育委員会

教育長 中野留美

委員 藤澤弘幸

作成職員 垣内巧子